

平成31年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、難関国公立大学等、志望する大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① 生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	教務課 全教員	昨年度後期授業評価において、5項目におけるA評価の平均は53%であった。内訳は、「ねらい」56%、「熱意や工夫」58%、「説明や指示」53%、「考えさせる場面」60%、「興味・関心」38%である。	【努力指標】 全教員の授業評価において、左記項目のA評価を増やす。	授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 45%未満	Dの場合、改善策を検討する。	授業評価で調査する。
	② 授業や総合的な学習/探究の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	進路指導 NSH推進 教務 学年	生徒対象の後期学校評価アンケートにおいて、3教科の肯定的な回答の平均は、67%（英語68%、数学61%、国語61%）であった。1、2年生のうち自分に合った学習スタイルについて考えて主体的に学習に取り組む姿勢を身につけることにより、弱点克服の基本的な学習や得意分野を伸ばす発展的な学習に取り組ませていきたい。 前期 [英64% 数64% 国56%] 1月現在で、1・2年生で1日の目標学習時間（1年2.5時間以上、2年3時間以上）に達している生徒は32%（1年34%、2年30%）であり、前期より減少した。適正な量・質の課題の提示に努めていくことはもちろん、主体的に家庭学習時間に取り組むための興味・関心を高める授業改善を進めて行きたい。 前期 [37%（1年42% 2年32%）]	【成果指標】 生徒が自らの進路実現のためにどのような力が必要かを考え、主体的に学習を進めている。	自らの学習について (ア) 授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (イ) 授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ) 授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ) その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。	(ア)+(イ)の合計が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(生徒)等で調査する。
	③ 国際社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	NSH推進 外国語科	英語による実践的コミュニケーション能力の育成を図り、定着度の指標としてGTECを定期的に受検している。昨年の2年生は12月の受検で1年次12月と比較し、27点の伸びがあったが、年によりばらつきがある。	【成果指標】 生徒の英語による実践的コミュニケーション能力が順調に伸長している。	2年次12月に受検するGTECにおいて、CEFR-Jの基準で、A2.2以上の成績を収めた生徒の割合が、 A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	Dの場合、改善策を検討する。	12月のGTECの結果で集計する。
	④ 高い志を持って進路達成に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	進路指導 教務 学年 教科	合格者数は、難関大学19名、金沢大学53名、国公立大学217名であり、難関大学に挑戦する生徒が増え、加えて地元金沢大学合格者も伸びた。ア〜ウのどの項目も昨年を上回っている。 1年次からしっかりと意識付けを行い、生徒たちは目標に向かって粘り強く取り組んでいた成果があらわれた。早い段階での意識付けの大切さを示した結果でもある。	【成果指標】 ア 難関大学合格者数 15名以上 イ 金沢大学合格者数 60名以上 ウ 国公立大学合格者数 200名以上	合格者数が A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず	Dの場合、進路指導体制を見直し、改善策を検討する。	合格実績で集計する。
	⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。	生徒指導 学年 各部顧問	昨年度よりすべての部活動が原則平日1日、土日1回の休養日を設定している。その中で教員は86%、生徒は73%が「効果的・効率的な活動に取り組んでいる」と回答している。 また、下校時間を遵守している生徒が85%（「よくあてはまる」が62%、「ほぼあてはまる」が23%）であった。今後も時間の使い方や効果的な取り組みを徹底していきたい。	【努力指標】 限られた時間の中で効率的・効果的な部活動を行い、時間の使い方を工夫して学習時間を確保する。 【成果指標】 限られた時間の中で効率的・効果的な活動の取り組みにより、下校時間が遵守されている。	限られた時間の中で効率的・効果的な活動に取り組んでいる部活動が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 下校時間を遵守している生徒が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	Dの場合、改善策を検討する。	部活動調査を実施する。

平成31年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取り組み	担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識やいじめを許さない姿勢など人としての基本を身に付けた、心身ともに逞しい生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	生徒指導 総務	後期学校評価の結果より、「積極的に挨拶をしている」については、生徒83%、保護者72%、教員80%、平均78%であった。 また、「きちんとした頭髪・服装をしている」については、生徒94%、保護者93%、教員84%、平均90%であった。	【成果指標】 あいさつにより元気で活力ある学校づくりと品位ある頭髪・服装を目指して指導する。	・積極的に挨拶をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない ・きちんとした頭髪・服装をしている (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない	挨拶の(ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 頭髪・服装の(ア)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。	生徒指導 総務	生徒の交通事故件数が前年度より多く、注意喚起を促してきた。後期学校評価において、「いつも守っている」が58%、「だいたい守っている」が32%であった。今年度も生徒、保護者、教職員が協力した交通安全啓発活動に取り組み、生徒の交通安全遵守の意識を高めていきたい。	【成果指標】 命にかかわるため、交通事故0件を目指して、交通ルールを遵守する取り組みや指導を行う。	生徒は自転車に乗車する際、交通ルールを (ア)いつも守っている (イ)だいたい守っている (ウ)あまり守っていない (エ)ほとんど守っていない	(ア)の%が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満 Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
	③ 生徒の健全な心を育み、一人ひとりが安心して学校生活を送ることができる、明るくさわやかな校風の樹立をさらに進める。	相談 生徒指導 保健 学年	各課や学年が連携を密にすることによって、生徒が悩み（学習・人間関係・部活動など）が深刻化し、不登校にならないように、相談しやすい環境を整える。	【成果指標】 (生徒用) 生徒が悩み（学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など）について学校に気軽に相談することができる。 (教員用) 日常の様子から、生徒の発するサインを見逃さないことを意識している。	(生徒用) 本校は悩み（学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など）を相談しやすい。 (ア)とてもよくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あてはまらない (エ)相談したい悩みがない (教員用) 日常の様子から、生徒の発するサインを見逃さないことを意識している。 (ア)完全にあてはまる (イ)よくあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)全くあてはまらない	(生徒用) (ア)+(イ)/100 -(エ)の%が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 (教員用) (ア)+(イ)の%が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 未満Dの場合、改善策を検討する。	(生徒用) 学校評価（生徒）で調査する。 (教員用) 学校評価（教員）で調査する。
	④ 面談等を通して、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。	生徒指導 学年	スマートフォン使用時間が1時間以内の生徒が28%であり、前年度の1年生において使用時間が増加していた。	【成果指標】 学年集会や担任の面談等で働きかけ、効率的な時間の使い方を考えさせ、自己実現を目指す生徒の育成を図る。	1・2年生において、学校で定めたスマートフォン利用の注意を守っているという生徒が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満 ※スマートフォン使用時間(学習に関する調べ物や学習アプリ等の使用を除く)が1時間以内を目標とする。	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
	⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	図書 学年	図書館の年間貸出冊数はここ数年増加傾向にあるが、図書館を利用しない生徒の割合は依然として高い。昨年度の読書量調査では、一冊も本を読まなかった生徒の割合（不読率）は78%だった。	【成果指標】 生徒に読書に親しんでもらい、一冊も本を読まない生徒を減らす。	一冊以上本を読んだ生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	Dの場合、改善策を検討する。	読書量調査により集計する。

平成31年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
<p>3 校は「文武両道」を実践するため、教職員の共通理解のもと、生徒の主体性、自己肯定感を高め、明るく活気があり、地域から信頼される学校づくりに努める。</p>	<p>① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。</p>	<p>全教職員</p>	<p>各課・各学年が連携を密にし、会議の効率化や分掌業務の見直しを行う中で、各教員の生徒と向き合う時間を確保することに努めている。</p>	<p>【努力指標】 教職員の共通理解のもと業務の平準化を図り、より組織的な学校運営を進める。</p>	<p>業務の平準化に向けた取り組みがなされ、組織的な学校運営が進められている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない</p>	<p>(ア)+(イ)の合計が 70%以上 A 60%以上 B 50%以上 C 50%未満 D</p> <p>Dの場合、分析および改善の検討を行う。</p>	<p>学校評価(教員)で調査する。</p>
	<p>② 校内研修会をより充実させ、今日的教育課題の理解とそれに対応しうる教員の資質を高めるとともに、若手教員早期育成プログラムを計画的に実施する。</p>	<p>教務 進路指導 保健 相談</p>	<p>昨年度は、授業での利用を目的としたタブレット研修などに加え、若手教員早期育成プログラム実践モデル校としてさまざまな校内研修を行った。</p>	<p>【満足度指標】 研修に取り組むことにより専門性と指導力が高まり、さらに、若手教員早期育成プログラムの計画的な実施により、以後の教育活動に役立てることができたと感じられる。</p>	<p>取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない</p>	<p>(ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> <p>Dの場合、改善策を検討する。</p>	<p>学校評価(教員)で調査する。</p>
	<p>③ 部活動の活性化を通して、競技力や技能の向上に努めるとともに、生徒の自主性や自立心の育成を図る。</p>	<p>生徒指導 各部顧問</p>	<p>前年度は北信越大会以上の上位大会に参加した部活動について、総体及び総文では運動部9、文化部4、計13であった。新人大会等では運動部4、文化部2、合計6であった。総体及び総文の結果に比べ新人等の結果はかなり減っている。</p>	<p>【成果指標】 部活動の活性化を通して、生徒の自主性と自立心の育成を目指したい。</p>	<p>北信越大会以上の上位大会に参加した部活動が A 20以上 B 15以上 C 10以上 D 10未満</p>	<p>Dの場合、改善策を検討する。</p>	<p>大会結果を集計する。</p>
	<p>④ 本校の教育活動に参加する保護者、地域の方々及び同窓生(保護者等)を増やすことによって、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭及び地域と学校との連携を更に深める。</p>	<p>総務 教務 生徒指導 学年 情報</p>	<p>昨年度の3S歩行では、保護者の参加協力者(協力者会議も含める)は962名、一般公開した桜高祭には1024名が訪れ、他のPTA総会等の学校行事を含め、3885名余りの保護者・地域の方に来校いただいた。また、ホームページの年間アクセス件数も18万件を越えており、保護者のみならず、地域の方、本校受検を考える中学生などが大きな関心を持って本校を注視していることがわかる。今後も、百周年に向けて保護者等とのつながりを大切にしていきたい。</p>	<p>【成果指標】 保護者等が生徒及び学校への理解を深めるため、学校が企画する行事に積極的に参加する。</p>	<p>本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者等の延べ人数が A 4500名以上 B 4300名以上 C 4000名以上 D 4000名未満</p> <p>行事 PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式、学校訪問(中学校PTA)</p>	<p>Dの場合、学校行事の内容やPR方法を検討する。</p>	<p>各学校行事の際の来校者実績で集計する。</p>
<p>4 組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、より効果的な教育活動を実践する。</p>	<p>① 業務を細部まで見直し、会議や組織の運営、業務遂行の効率化、教職員の意識改革を進めることによりワークライフバランスをとり教育活動の向上に努める。</p>	<p>教務 生徒指導 全教職員</p>	<p>高い目標を掲げ文武両道を推進する中で教職員に求められる業務が多種多様であり量的な負担も大きい。組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、より効果的な教育活動を実践する必要がある。</p>	<p>【努力指標】 ワークライフバランスを意識して、生徒に対する時間を確保し、定時退校ウィーク、部活動休養日等により時間外勤務を減らす。</p>	<p>具体的取り組みを実践し、多忙化改善に向けた取組ができたという問いに対して「1意識できた」「2だいたい意識できた」という回答の割合(1+2)が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>Dの場合、評価が低いと判断し改善策を検討する。</p>	<p>学校評価(教員)で調査する。</p>